

## 試験研究と普及との連携について

大分県林業振興課

林業専門技術員 江藤 幸一

本県は、県土の73%にあたる46万haが林野であり、なかでも民有林の割合は、全体の90%に達するなど大きなウエイトを占めています。

民有林においては、特にスギの割合が高く、スギの森林蓄積は、およそ5,000万m<sup>3</sup>に達するなどスギを主体とした林業県であります。

こうした中で、本県の森林、林業をとりまく情勢は、木材価格の低迷、若者の山離れ、山村の過疎化、高齢化など厳しさを増しています。

さらに、乾シイタケについても、急速な円高基調のもとに、中国産乾シイタケの進出等により、生産者は大きな影響を受けています。

このため、林業関係者の間では、国、県の林業施策や試験研究の取り組みについて、大きな期待を寄せているところあります。

こうした林業の厳しい現状を乗り切っていくためには、試験研究機関と普及との連携が極めて重要となっております。

しかし、現実には、試験研究の成果が林業現場の末端まで浸透していない例や林業現場等が望んでいる試験研究が実行されていない例など試験研究と普及との連携が十分とれていない面があると思います。

確かに、試験研究機関の研究者は、時代を先取りした研究や学術的な基礎研究も重要かと思えます。

しかし、林業現場や林業行政からみると、造林から木材加工、特用林産に至るまで、林業現場等が必要とする実用化に向けての試験研究を望んでいることも事実であります。

こうした中で、本県の普及指導活動において、当面の課題として、次のことがあげられます。

- (1) 災害に強い山づくりをめざした広葉樹造林技術及び複層林施業技術の確立
- (2) 高性能林業機械による作業システムの確立と育林から伐採に至る省力化林業技術の確立
- (3) スギ材の新しい利用技術やスギ材の乾燥技術、スギ中目材の利用技術の確立
- (4) 乾シイタケの生産コストの低減と高品質化に向けた栽培技術の確立
- (5) 新しい栽培きのこの開発など

今後、こうした課題について、試験研究と普及とが連携を図りながら対策を講じていくことが一層、必要であり、お互い情報交換や技術の交流等を通じて、さらに連携が図られるよう努力しなければと思うものであります。